高橋章教授退職記念号に寄せて

経済学部長　水　口　　剛

なでしこジャパンが世界一になった翌年、本学は、高橋章先生をお送りすることになりました。高橋先生と言えば、サッカー。残念ながら私は、先生が実際にプレーをされる雄姿を拝見したことはありませんが、本学サッカー部顧問であるだけでなく、日本サッカー協会の技術委員（公認Ａコーチ）兼科学委員で、群馬県や高崎市のサッカー協会副会長を務められ、群馬県の国体サッカー強化委員長を10年も勤められるなど、その実績は素晴らしいものと思います。以前のワールドカップの際には、本学の教室を解放して大勢の学生とともにビデオ観戦されたことを今でも覚えています。

サッカーだけではありません。高橋先生は、長く本学体育会本部の顧問を務められ、学生の課外活動を見守ってこられました。何より、体育の専任教員として、多くの非常勤講師の先生方を束ね、経済学部の体育の授業の運営を一手に引き受けて頂きました。これらのことにつきまして、学部を代表してお礼を申し上げます。

私は、学部長になって以降、何度も高校生向けに本学の説明をする機会があります。そのときに、よくこういう話をします。本学の学生は4,000人を超えますが、そのうち群馬県出身者は約1,000人で、残りの４分の３の学生は、北は北海道から南は九州・沖縄まで、日本全国から集まっているのです、と。彼らは、当然、自宅からは通えませんから、大学の近くにアパートを借りて住むことになります。親元を離れて暮らす彼らには居場所が必要です。それが、部活やサークルなどの課外活動であり、ゼミであるわけです。課外活動が活発だということは、本学の特色の１つにもなっています。その意味で、長年、体育会本部顧問を務めて頂いたことは、たいへんありがたいことであったと思います。学生たちにも強い印象を残されたことでしょう。

また、体育の授業は体を動かすものである以上、学生が怪我をするリスクもあるでしょう。その分、通常の座学とは異なる緊張感があったことと思います。そのような中、大きな事故もなく、体育の授業が継続されてきたのは、高橋先生のご尽力によるところが大きいものと思います。

大学には定年がありますが、スポーツに定年はなく、研究にも定年はありま

せん。高橋先生が、ご専門のスポーツや運動を通して、いつまでもご健康を保たれるとともに、ご研究が今後ますます発展されることをお祈りします。